

## 我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立仰木の里東小学校

## ○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 【結果について】

【概要】本校の学力調査の結果は、滋賀県および全国の平均と比較して、国語科はやや下回り、算数科はおおむね同程度でした。理科についても、一部の領域で課題が見られましたが、全体としてはおおむね同程度の結果でした。無回答率は全体的に低く、子どもたちが最後まであきらめずに取り組む姿勢が定着していることが分かりました。一方で、文章や図表などを関連付けて思考する問題では、無回答率がやや高い傾向が見られました。問題形式による顕著な差は見られず、どの形式にもおおむねバランスよく対応できていました。国語科では、「情報の関係性を整理して表す力」や「本文から必要な情報を見つけ出す力」をみる問題で良い成果が見られました。これまで、文章の情報を整理したり構造をつかんだりする学習や、要点を捉える指導を重ねてきたことが成果につながったと考えられます。一方で、「聞く目的に応じて話の内容を的確に捉え、まとめる力」や「資料・図表を関連付けて情報を整理し表現する力」に課題があり、今後はこれらの力の育成に力を入れていきます。算数科では、「図形」の問題で高い成果が見られました。図形の性質を基に関係性を考え、表現する力が着実に育っています。一方で、「目的に応じて適切なグラフを選んで活用する問題」や「はかりの目盛りを読む問題」など、測定に関わる内容で課題が見られました。今後は、グラフや資料を使って自分の考えを説明したり、生活場面と結び付けて考えたりする学習をより丁寧に進めていきます。理科では、観察や実験を通して現象を捉える力が育ち、学習意欲の高さもうかがえました。一方で、電気をはじめとするエネルギーを柱とする領域では、仕組みや働きを理解の定着に課題が見られました。今後は、体験的な学習を通してエネルギーの伝わり方や変化を実感し、生活とのつながりを意識して理解を深めていけるよう支援していきます。3教科を通して、子どもたちは学びに対する自己肯定感が高く、意欲的に問題に取り組む姿が見られました。今後は、国語科で培った「聞く・話す・書く・読む」力を他教科にも広げ、根拠をもって考えを整理し、表現する力の育成に力を注いでまいります。

## 【指導の充実に向けて】

児童質問調査では、全国平均を上回る肯定的な回答が多く見られました。特に「困ったときに大人に相談できる」「学校に行くのは楽しい」といった項目で高い結果となり、子どもたちが安心して学校生活を送っていることがうかがえます。教科担任制の取り組みや、学年や教科を越えた教職員の連携により、一人一人の児童に丁寧に関わってきた成果と考えられます。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「自分の考えを発表する場面で工夫ができた」など、話し合いや発表に関する項目でも高い結果が得られました。授業の中で自分の考えを整理し、発信する活動が定着しつつあります。さらに、「国語や算数の学習が好き」「難しい問題にもあきらめずに考える」「理科の実験から学んだことを考える」など、教科に対する興味や意欲も高い水準にあります。一方で、「タブレットを使用して学校のプレゼンテーションを作成できるか」という質問では、通過率が低い結果となりました。これは、タブレット操作の習熟度よりも、「自分の考えを整理し、構成して発表資料にまとめる」といった学習活動の経験が十分でなかったことが一因と考えられます。タブレットを情報収集や記録に用いる機会は増えていますが、「まとめて伝える」目的で活用する経験はまだ限られています。今後は、日常の学習の中で、調べたことや学んだことを他者に伝える活動を意識的に取り入れ、ICTを活用した表現力の育成を図ってまいります。

今回の結果を受け、子どもたち一人一人の思いを大切に、ICTの活用や教科をつなぐ学びを広げながら、自ら考え、表現する力を育み、学ぶ楽しさや成長の喜びを実感できる授業づくりを目指してまいります。